

2016年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	商学部	身分	教授
氏名	本庄 裕司		
NAME	Yuji Honjo		

1. 研究課題

(和文) バイオテクノロジー分野におけるスタートアップ企業の資本構成

(英文) Capital structure of start-up firms in the biotechnology industry

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

(和文)

本研究では、日本のバイオテクノロジー分野における設立間もない企業（以下、「バイオスタートアップ」と呼ぶ）を研究対象とし、バイオテクノロジースタートアップのパフォーマンスを分析する。いくつかの株式公開をはたしたバイオテクノロジースタートアップを事例として選択し、株式公開後の利益率や株価総額の推移を明らかにする。結果として、平均的にこれらの企業の利益率や株価総額に増加傾向はみられなかった。こうしたことから、日本のバイオスタートアップは、新規株式公開によってパフォーマンスの改善がみられておらず、多額の研究開発費の確保に向けて、既存株主のエグジットのために新規株式公開をしているに過ぎないことが示唆される。

上記の内容は、研究期間終了前に著名な出版社の書籍や学術雑誌に研究成果としてすでに出版しているが、規程にしたがって、終了後に新たな研究成果をまとめる予定である。すでにバイオテクノロジースタートアップの資金調達の概要は把握できたため、今後は、それ以外の産業を含めたスタートアップ企業のデータセットを構築し、こうして得られたデータセットにもとづく検証結果を研究成果としてまとめていく予定である。

(英文)

This study explores the performance of start-up firms in the biotechnology industry—that is, biotechnology start-ups. Using several cases of listed biotechnology start-ups in Japan, I show change in the profit rates and market values of the start-ups through going public. As a result, I provide no evidence that on average, the profit rates and market values of biotechnology start-ups increase after going public. The results indicate that an initial public offering (IPO) does not necessarily improve the performance of biotechnology start-ups, suggesting that biotechnology start-ups conduct an IPO as exit strategy for existing shareholders, in order to secure large amount of research and development expenditures.